

# 令和7年度 第3回 国有林材供給調整検討委員会

< 次 第 >

日時：令和7年11月28日（金）13:30 - 16:00

場所：中部森林管理局 大会議室

## 1 開会

## 2 森林整備部長あいさつ

## 3 議事

### （1）国有林材供給調整対策について

#### ①資料説明

資料1 中部森林管理局の状況

資料2 新設住宅着工戸数

資料3 樹種別・販売ブロック別 丸太価格の推移（市売結果）

資料4 価格解析シート

資料5 販売ブロック別 原木の入荷量・販売量及び在庫量

資料6 聞き込み先別 原木の入荷量・販売量及び在庫量

#### ②中央国有林材供給調整検討委員会について

#### ③供給調整の必要性について

#### ④検討結果

### （2）意見交換（木材商況と動向）

### （3）その他

## 4 閉会

## 令和7年度 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会 委員等名簿

### 検討委員会 委員

区分	所属	氏名
学識経験者	信州大学名誉教授	植木達人
関係行政機関の職員	富山県農林水産部森林政策課 主幹	北島貴文
関係行政機関の職員	長野県林務部信州の木活用課 県産材利用推進室長	今尾春彦
関係行政機関の職員	岐阜県林政部県産材流通課長	垂見光貴
関係行政機関の職員	愛知県農林基盤局林務部林務課 あいちの木活用推進室長	佐久間学
川上・川中	長野県森林組合連合会 業務課長	田口連蔵
川上・川中	岐阜県森林組合連合会 木材流通本部長心得	赤池保
川上	平澤林産有限会社 代表取締役	平澤照雄
川上・川下	株式会社勝野木材 代表取締役社長	勝野智明
川中・川下	株式会社東海木材相互市場 代表取締役会長	鈴木和雄
川下	ウッドリンク株式会社 代表取締役副会長	原野哲雄

## 中部森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	村上卓也
資源活用課長	三井正
企画官（木材需給対策）	村木英徳
企画官（間伐推進）	下平明博
企画官（長期安定供給）	古畠輝雄
上席技術指導官（木材供給）	谷澤恭子
素材供給係長	黒澤友大
供給計画係	菊地真以

# 令和7年度 第3回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会

## (概要)

### 1. 開催日時

令和7年11月28日（金）13時30分～16時00分

### 2. 開催場所

中部森林管理局 大会議室

### 3. 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

### 4. 検討結果

全国的な木材需要動向については、9月の新設住宅着工戸数は、前年同月と比較して6ヵ月連続で減少している中、首都圏と中部圏ではそれぞれ8月に続き前年同月を上回っている。国産材丸太は11月に入り北関東や東北でスギの相場が上昇傾向にある一方、西日本ではヒノキを中心に引き合いが鈍ってきてている。出材は全国的に増加傾向にある中で、スギ、ヒノキの価格とも昨年に比べ高値で推移している状況にある。

また、国産材製品は複数のビルダーのプレカット加工が増加し、直需向けの販売比率が高い製材所は忙しくなり始めた。杉間柱の引き合いが強く、受注残もたまり始めている。一方、10月に入っても市売市場は建築確認の遅れで工務店の物件が停滞し市況は低迷している。

中部局管内の原木価格に目を向けると、伐り旬を迎える素材価格は上昇傾向になりつつあるが、原木の供給量が増加するのかは不透明感がある。県別で素材価格をみると長野県のカラマツ、岐阜県のヒノキ、愛知県のスギについて上昇する傾向が続いている。原木集荷が最も増加する秋需を向かえ原木の供給に対する期待も高まっている。

こうした状況を見据え、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めていくことが重要である。

### 5. 委員意見等

- 民間のヒノキ、アカマツ、スギが出材がされなく、今は供給が停滞している。そのところをカバーしているのが実は国有林材。国有林が安定供給したことが、現在の市場に寄与している割合が高い。

- 集荷に関しては、市場の取り扱いの方が計画以上となっている。ただし、山からの大型工場への直送部分が落ちている。補助事業の執行も不足している中で、素材生産が伸びてないというのも現状。民有林の出材が少なくなっている。合板工場は生産能力がある割にまだ減産体制、製品価格の転換ができていない。
- 秋口から本格的に出材が始まり、冬に向けて力強い供給になるのかなと感じている。他の地域では、極端にスギの供給が減ってしまっている状態。今後は雪が降り、積雪の多い地域での出材は厳しい状況。国有林に安定供給を望む。
- 昨年は原木不足で挽く材がなく、製材所を年間で 20 日間ほど止めた。でも今年は国有林の安定供給のおかげで、ある程度仕事が出てきている。流通の市場関係や、問屋、工務店関係は相変わらず非常に厳しい状況が続いている。
- 隣接県に新しく大型製材工場が立ち上がり、そちらに材が流れている為、既存のルートへの材が減少している。こちらも新工場を立ち上げているが供給量が落ちてきており、集荷に苦労している。
- 小規模の素材生産業者が減っており、並材の市場への供給が減少している。問屋自体が伐採をやらざるを得ないと思っている。また、木材の主要の用途が内装材になってしまっているのが大きな問題。
- 県内の状況は、出材に関しては民間事業者の出材は少ないが、それを森林組合が補っている。バイオマス関係者からの話では、合板会社に行くような材まで回ってきており、納材は順調。
- 県内にはアカマツが多くあるが、松くい虫の被害が拡大しており、早急な対応が求められている。アカマツは木材価格が安く、利用も難しく、収支が合わないために積極的な森林整備を行うことが難しい。今後は高付加価値化を目指していきたい。
- 市場では、木材の入荷が減っている。冬前で、通常であれば量は増える時期だが増えていない。製材工場ではA材が入荷しづらい。また、柱は 10.5 角が増加。原木は太くなるが四寸角より 10.5 角の方の出荷が増加。工務店は厳しい状況が続いている。
- スギの板材の生産が多くスギの良材の需要があるが、枝虫材の増加により良材の絶対量が減っているため、競争となりスギの原木価格が上昇している。製材工場は原木の入手が難しい状況。

以上。